

平成 24 年度 第 1 回長野市総合計画審議会 会議録

日時：平成 24 年 4 月 17 日(火) 13 時 30 分～15 時 10 分

会場：長野市役所 第二庁舎 10 階 講堂

1 開会

(事務局)

定刻になりましたので、これから平成 24 年度第 1 回長野市総合計画審議会を開会いたします。私は、企画政策部主幹の高橋と申します。よろしくお願いたします。

本日の会議であります。本市の指針として、公開で開催してまいりますので、ご了承ください。

ここで、資料の確認をお願いしたいと思います。本日の資料は、事前にお送りしました資料として、次の 3 点がございます。

平成 24 年度 第 1 回長野市総合計画審議会 会議次第、平成 24 年度 第 1 回長野市総合計画審議会 資料集、平成 24 年度版 第四次長野市総合計画 実施計画（主要事業計画）でございます。また、本日、昨年 12 月に答申いただいた内容をもとにまとめた、第四次長野市総合計画 後期基本計画（冊子）とその概要版ができましたので、一部ずつ、お配りしています。不足の資料等がありましたら、お近くの事務局職員にお申し付けください。

また、本日は小泉委員、小出委員、関委員、松岡委員、三浦委員、吉田委員から欠席のご連絡をいただいておりますので、ご報告いたします。

それでは、会議次第に沿い、進行いたします。はじめに、総合計画審議会 藤沢謙一郎会長からご挨拶をお願いいたします。

2 会長あいさつ

(藤沢会長)

新年度を迎え、ご多忙の中、お集まりいただき、ありがとうございます。

前回、12 月 20 日の会議では、「第四次長野市総合計画 後期基本計画」をご決定いただき、同日、審議会を代表して、正副会長で市長へ答申してまいりました。

これはひとえに、委員各位のご協力の賜物と改めて感謝いたします。

後期基本計画は、この 4 月からすでに始まったわけではありますが、本日は、本審議会でもまとめてきた後期基本計画の内容をどのように実現していくか、推進体制と実施計画の内容について、事務局から説明があります。

本日も限られた時間ではありますが、活発なご協議をお願いいたします。

3 自己紹介

ありがとうございました。

次に、次第3の自己紹介に移ります。

審議会委員の皆様につきましては、交代等がありませんでしたので、本日のご紹介は省略させていただきますが、本日の会議資料の資料集3ページには、委員の皆様の名簿を掲載しております。

職名につきましては、委員就任時のもので掲載していますので、ご了承ください。

次に、4月1日付けで長野市部局長及び事務局職員に人事異動がありましたので、資料集4ページをご覧ください。

それでは新任職員をご紹介しますので、新任の部局長から名簿順に自己紹介をお願いいたします。

－ 新任部局長及び事務局職員 自己紹介 －

4 議事

(事務局)

それでは、審議に移らせていただきますが、議長につきましては、長野市総合計画審議会条例第6条の規定により、藤沢会長をお願いいたします。

なお、審議の時間でございますが、事務局としましては15時30分をめぐりにお願いしたいと思っておりますので、ご協力をお願いいたします。

また、議事において、委員の皆様が発言される場合は、お手数ですが、挙手していただき、議長の指名でお手元にマイクをお持ちしますので、お名前をおっしゃってから、お座りになったまま発言することをお願いしたいと思います。

それでは、議事の進行をお願いいたします。

(藤沢会長)

本日の議事に入ります。

はじめに、次第の4(1)「第四次長野市総合計画 後期基本計画の推進体制について」議事とします。

事務局から説明してください。

(事務局)

第四次長野市総合計画 後期基本計画の推進体制について、ご説明いたします。
資料集の1ページをご覧ください。

－ 資料に基づき説明 －

(藤沢会長)

ただいま、事務局から、第四次長野市総合計画 後期基本計画の推進体制について説明がありました。

後期基本計画の推進体制としては、前期基本計画と同様に、「長野市重点施策推進本部」を設置し、全庁的な連携体制により、第四次長野市総合計画に基づくまちづくりを迅速かつ効果的に推進したいと考えているとのことでした。

ご意見やご質問があれば、お願いいたします。

【意見・質問なし】

特にご意見、ご質問がなければ、「第四次長野市総合計画 後期基本計画の推進体制について」は、以上のおりとしたと思います。

次に、次第の4の(2)「平成24年度版 第四次長野市総合計画 実施計画(主要事業計画)について」議事とします。

事務局から説明してください。

(事務局)

第四次長野市総合計画 後期基本計画 実施計画について、ご説明いたします。

お手元に、別冊資料とした「平成24年度版 第四次長野市総合計画 実施計画(主要事業計画)」をご用意ください。

－ 資料に基づき、重点施策を中心に説明 －

(藤沢会長)

平成24年度版 第四次長野市総合計画 実施計画について説明がありました。

実施計画は、後期基本計画の実現に向け、市として取り組む主要事業等をまとめたもので、重点施策を中心に説明がありました。

最初に質問をしたいのですが、「2 主要事業」の表にある「H24新規」とは、どういう意味ですか。

(事務局)

今年度、初めて事業として予算化したものに「H24 新規」と表記しています。

(藤沢会長)

分かりました。

他にご意見やご質問があれば、お願いいたします。

(井出委員)

表の事業名を見ると、国の補助金を得ている事業も書かれていると思います。単独事業と補助事業だと傾向が違いますし、広域連合としての事業も書かれているので、「H24 新規」のように、「国補」や「広域連合」といった記載があれば見やすいと思います。

(事務局)

実施計画の内容については、市民に対して、どういったサービスが提供されるかということを中心に作成しています。財源も非常に重要ですが、1つ1つの事業の財源を捉えるというよりは、最後にご説明をした124、125ページの「財政の見通し」に歳入・歳出について書かれていますが、長野市全体として収支が賸るかといった大きなくりで見ています。補助金以外にも、起債、使用料、手数料等、いろいろな財源があるので、1つ1つの事業にご指摘の項目を載せていくと非常に複雑になってしまいます。

広域連合の事業については、33ページのごみ処理施設のことだと思いますが、これは市町村の連合組織が実施する事業で、長野市の負担割合が決まっています。ここでは、長野市が負担する金額に着目していますので、広域連合の記載がなくても支障はないと考えています。

(井出委員)

なぜ補助金についての記載があれば分かりやすいと言ったかということ、補助金だと国の政策が変わらなければ、財源が継続的に確保できるので仕事が進めやすいと思います。「国補」の記載がなければ、長野市が施策を工夫して限りある財源から独自に努力しているということが分かるので、長野市の独自性が見えると思います。

市の全体像、市の努力している姿が見やすいということで要望したのですが、本編に記載するのが難しければ、一覧表にして見せることは可能でしょうか。

(事務局)

実施計画の主たる目的としては、細かな財源や独自性を見せるというよりも、どういったサービスがあるのか分かりやすく市民に示していくことにあります。井出委員さんのおっしゃることについては、長野市の財政状況をいかに分かりやすく示していくかということにもなるので、一番後ろにある「財政の見通し」等、いろいろな場面で説明していきたい

と思います。

(石澤委員)

実施計画については、審議会として意見が言えるものなのでしょうか。

(事務局)

後期基本計画については、市長が本審議会に諮問をして、委員の皆様には計画をまとめていただきました。実施計画については、答申をいただいた計画に基づいて、市長が市政運営の中で、責任を持って実現していくものになります。

実施計画は、市として既に決定しているものですが、毎年ローリングをして作っていきますので、皆様から要望をいただいたら、来年度のものに反映できるように検討していきます。

(石澤委員)

総合計画の中で、いろいろな議論がありましたが、そういったものが実施計画の中に盛り込まれていないので、本来なら総合計画の策定中に検討されたことが、実施計画や重点施策の事業の中に盛り込まれるべきだと思います。

審議会委員としては、実施計画に掲載された事業の選考過程を説明していただければ、理解をして次につなげられると思うので、次回から、説明できるように検討していただきたいと思います。

(藤沢会長)

石澤委員さんがおっしゃったように、それぞれの分野で議論されたことが、どのように実施計画に反映されているか、委員の皆さんは関心をお持ちであるし、また持っていたことが大事なことだと思います。

他にご意見・ご質問がなければ、「平成 24 年度版 第四次長野市総合計画 実施計画について」は、以上のとおりとしたいと思います。

次に、次第の5 その他 (1) 今後の予定について、事務局から説明してください。

5 その他

(事務局)

事務局から、今後の予定について、ご説明いたします。

本日お集まりの審議会委員の皆様には、本年7月19日まででございませうが、本日の会議を、現行の委員の皆様による最後の会議にしたいと考えております。

一昨年7月に、委員にご就任をいただいてから、後期基本計画の策定に向け、鋭意ご尽力をいただき、ありがとうございました。

ご退任後も引き続き、本市のためにご指導をいただきますようお願い申し上げます。
今後の予定については、以上です。

(藤沢会長)

事務局から説明がありましたとおり、現行の委員による会議は、本日が最後の会議になるということです。

ここで、せっかくの機会ですので、意見交換として、委員の皆様から一言ずつ、審議会委員としての感想や印象に残ったこと、市政に対するご要望など、自由にご発言をいただきたいと思います。

それでは、着席順に、立浪委員から順番にご発言をお願いできればと思います。

(立浪委員)

保健・福祉部会の部会長をさせていただいた立浪です。2年間お世話になりました。

子育て支援について、重点施策の中に入っていることを大変心強く思います。子育て支援は、国の政策がこれからどうなるか分かりませんので、それによって変わってくることもあるかもしれませんが、子どもたちは毎日成長していますので、国の施策に関わらず、長野市として子育て支援をはじめ高齢者福祉などの福祉施策に、今後も尽力していただきたいと切に思っています。よろしくをお願いします。

(小山委員)

小山です。総合計画の策定に、一市民として関わったことを非常に幸いに思っていますし、チャンスを与えてくださったことに感謝しています。

今回、長野市という行政が持つ課題の深さや広さ、複雑さというものを知ることができ、大変勉強になりました。

また、日常においては行政への批判的な意見がよく聞かれます。市民の意見を聞いてくれないとか、縦割り行政の弊害があるといったものです。民主主義の社会では、意見を述べる自由がある反面、あまり良く分からないうちに、他人の意見に同調していってしまうという危険性もあります。多くの市民の方が、審議会や計画策定など、行政に直接関わる、または関心を持っていただくことが必要であると感じました。

特に、パブリックコメントの数が非常に少なかったという点、それはこの会議が進めている内容が非常に難しいということもあるかと思いますが、実際にこのような検討が行われているということを、もう少し分かりやすい形で市民の多くの方に分かっていただき、関心を持っていただけるようにしていけたら良いと思います。

今後は、重点施策推進本部が、庁内の調整、連携をしつつ総合計画を進めていくという

ことですので、この点については、大いに期待をしています。ありがとうございました。

(青木委員)

公募委員として参加させていただいた青木邦一です。第四次長野市総合計画の策定に参加させていただいたことに、深く感謝いたします。

日頃は、市の行政に対して、特に深く考えることもなく受け止めていましたが、審議会に参加させていただいたことにより、各事業が実施されるまでに、どのような経過を辿って計画、立案されるかということ、身をもって体感することができました。

今後は、私たちが立てた実施計画が、計画どおり執り行われるよう、ご努力をお願い申し上げますとともに、私は今回の経験を踏まえて、市の諸事業に今まで以上に興味関心を持って、まちづくりに参画して参りたいと考えています。ありがとうございました。

(羽藤委員)

防災・安全分野でお世話になった消防団長の羽藤です。

昨年、審議の途中で3・11東日本大震災が発生し、私たちの部会は、長野市を大災害から守るにはどうしたら良いかということで、追加の検討をし始めました。

その中で、私が消防団長として、消防団を大災害に対応できる体制とするために、この4月から組織を再編しました。これまで合併後の市域に12あったブロックを6方面隊に再編成し、団長以下、4人の副団長のもとに6人の方面隊長を配置しました。

市民の皆さんには、各種災害に迅速的確に対応できる、機動的な消防団を大いに活用していただき、私たちもその期待に添いたいと思います。

(中島委員)

中島でございます。2年前に公募委員として参加させていただいて、産業・経済部会の部会長を仰せつかりまして、大変お世話になりました。非常に貴重な体験ができて、ありがたく思っています。

私が担当させていただいた産業・経済分野については、作業部会の中でいろいろな議論をしましたが、現代社会の変化が浮き彫りになっている部会だどつくづく感じました。中心市街地の衰退、商工業関係では、工場が日本から海外に移転していく現象、農業を担う後継者不足や、中山間地域の問題と、非常に幅広い問題を抱えている中で、現在、行政が1つ1つの課題解決に向けた事業を展開している努力を見させていただきました。

今後、産業・経済分野において、こういった方向に重点を置いていくのかということですが、後期基本計画の中では、農業にかなり力が加わってきていて、実施計画を拝見しても、前期基本計画に比べて農林業がボリュームアップしていることを感じ、大変ありがたく思っています。

また、この2年間では、私は市が進める都市内分権における住民自治協議会や屋代線の

廃止に係る交通関係の問題に関わりを持たせていただきました。そのようなことが今回の総合計画の議論においても参考になったかと思えます。

都市内分権については、市民一人一人が、行政に対する関わりを真剣に考えていかなければいけない時期にきていて、それをどのように具現化するのか、また行政が、市民に理解をしていただけるようなアプローチをしていけるのか、我々住民の中に、どのようにリーダーを育てていけるのか、この辺も非常に重要な部分になってくると思えます。今回、実施計画が示されましたが、市民の心をまとめ、市民のまちづくりへの参加をどう促していくのかということが、難しい問題だと思いました。

交通政策については、屋代線廃止をはじめとして公共交通について、議論をさせていただいたのですが、1つ言えることは、市民がこうした日常生活に係る問題について自ら理解し、責任を自覚していただく時期にきているのだと思えます。単にマイカーに依存して、安易に生活を送ることが、いかに行政コストを圧迫しているのか、それぞれの街中の衰退に拍車をかけているのかということ、もっとはっきりとさせていく必要があると感じました。ありがとうございました。

(志村委員)

環境分野を担当しました、志村です。

このような委員は、初めて務めさせていただき、環境部会長という立場から、自然環境から生活環境まで広範囲な協議を行ってきました。その中で、一般の方々に分かりやすい文言を使いながら協議をまとめていくということに、苦心をしたのですが、豊かな自然を守り、次世代にどう残していくかという、非常に重要な観点を考えながらまとめさせていただきました。

今回の重点施策にも入っていますが、個人的には、生活する上でいかにごみを出さないかとか、資源を活用するといったことを、日々気をつけながら生活していかななくてはいけないし、それが行政のコストダウンに繋がるのではないかと思います。そのためには、環境に対する教育というものに、もう少し力を入れてやっていただくと良いのではないかとというのが率直な意見です。ありがとうございました。

(井出委員)

井出と申します。今回、公募で参加させていただきました。応募の際のレポートがまちづくりに関することだったため、この審議会ではまちづくりを中心に、長野市の政策の俯瞰的な方向性を決めるものだと思っていましたので、当初の思いとは内容が違いましたが、いろいろと勉強になりました。

基本計画の作成では、部会に分かれて議論を積み上げたことにより、多岐に渡って議論されるので良いのですが、都市内分権のように多分野にわたるテーマについては、部会等を中心にやるのと同時に、全体的に集中討議する場があっても良いのではないかと思います。

す。全体的に俯瞰するという視点は外したくないので、そういう視点での議論の仕方も必要だと思います。

一番疑問に感じたのは、行政経営分野には部会を設けず、内部の人が議論をするということで、私には理解しがたいことです。行政経営分野については、第三者が決めても良いのではないかと、あるいは全体討議的な話をして良いのではないかと思いました。

結論としては、計画の進め方自体をもっと詰めれば、面白い斬新な意見が出るのではないかと思います。計画の進め方、行政の進め方自体の、仕組みの見直しが可能であれば非常に面白いと思いました。

(山口委員)

環境分野に関わらせていただいた山口です。今回、このような貴重な機会に参加させていただきありがとうございました。

審議会では、広い分野に関わることができ、学ばせていただきながら、常に一市民だったらどう思うのかということを考えながら、分からないことを質問させていただきました。

環境については、長野市の場合には、合併によって広域になったため、非常に難しさがありました。

一番記憶に残っているのが、環境分野のワークショップの中で、再生可能エネルギーを増やすために、ペレットストーブや薪ストーブを広げられないかという話になった時に、逆にそういったことが公害だと受け取る市民の方もいるので、行政としては両者の立場を尊重しつつ、施策を実施するために必要な調整をしなければならぬという話がありました。いろいろな立場や考えの人がいる中で、環境分野の施策を進めていくこと、再生可能エネルギーについて進めていくことの難しさを感じました。その上で、両方の視点を持ちながら、施策を進めていくのは難しいと思いますが、今後も是非再生可能エネルギーを推進して行って欲しいと思いました。

また、先ほど石塚委員さんからもお話があったのですが、基本構想、基本計画という大きな枠組みと、実際に毎年のローリングで見えていく実施計画にブレークダウンをした時に、施策と事業の間を埋めるものが、審議会の委員として関わらせていただく中でも分かりにくいところがありました。そう考えると、市民の皆さんが総合計画の冊子を見て、長野市の目指す姿と、市民が受けられる行政サービスとが、繋がらないのではないかと思います。難しい問題だとは思いますが、今後そういった部分も考慮しながら進めていただければと思います。ありがとうございました。

(石塚委員)

石塚と申します。教育・文化部会の部会長として参加させていただきました。

今日、私たちが議論してきた内容がまとまった後期基本計画の冊子が配られました。表紙には平和の象徴の鳩が飛んでいて、緑豊かな自然があり、また3人の子どもと手をつな

ぐ親子、家庭の姿が描かれており、長野市のイメージを表現したものだと思います。私たちも、イメージのような良い都市に長野市が発展することを願いながら話し合いをさせていただきました。

この2年間、未来の教育文化の目指す姿を計画にどのように表現していくかということで、テーマを与えられたことにより学校長としてだけでなく、一市民としての立場からも夢を描かなくてはならないと考えるきっかけができ、本当に良い2年間だったと思います。

私は、この計画の策定に参加させていただいて、一層長野市が好きになりました。私たちが理想とするまちを作っていくたいということを語る機会があって、多くの市民の意見を行政の皆さんが少しでも取り入れてやっていってくださることが、本当にありがたいと思います。

私は、学校に勤めていますので、明日を担う子どもたちを育てる教育の果たす役割は大きいと思っています。

今年から、私の勤めている学校の校舎が改築されます。そのことを聞いた卒業生たちが、古い校舎が壊される前に同窓会を開きたいということで、先月学校に来ました。私も仲間に入れてもらって、学校の中を案内したのですが、みんなが子どもの頃の思い出を語り合っている姿を見て、やはり自分のふるさとが大好きで誇りを持っていると思いました。学校はそういう人たちを育ててきたと思うと、本当に励まされ、勇気づけられました。ふるさとを誇れる人、自分の生まれ育った場所が大好きな人を育てていくことが、教育において大切なことであると、その時に感じました。

通明小学校校歌の中に、「高き文化の香るところ」とか、「土地も豊かに水清く」といった、文化や風土を誇った歌詞があります。かつて勤めた市内の学校にも、「土肥えて民の稼ぎも豊かなり」といった歌詞がありました。自然と経済的な繁栄を皆望んでいて、脈々と続いてきているということで、今後も長野市が発展すれば良いと思いました。

今年、屋代線が廃止されましたが、かつて長野電鉄の歴史を調べたことがあって、長野県の経済を支えた繭を運ぶために作られ、村山橋は地方の電鉄としては初めて、電車と自動車と共用する橋でした。また、地方都市では初めて地下鉄化が実現し、時代のさきがけとして様々な取り組みをしてきたのは長野市でした。

オリンピックをやったというエネルギーもすごいと思います。

これからは私たちがこうして受け継ぐエネルギーを未来につなげながら、長野市を活性化し、長野市が子どもたちの誇るまちになっていくよう願っています。ありがとうございました。

(山岸委員)

教育・文化部会の山岸と申します。2年間審議会に参加させていただき、長野市を見つめ直す機会をいただき、ありがとうございました。

私は、普段は部屋にこもって制作活動をしています。制作の合間をぬって女子会などに

出かけるのですが、長野駅から家まで歩いて帰るときに、街灯に照らされた町並みを見て、なかなか良い町並みだなとか、長野市も悪くないなという感想を持っています。

長野市には近代化、都市化のために再開発を大胆に推し進めるところと、路地裏の町並みを住民の努力で改善してきているところがあります。市内にある無数の路地裏が、住民のセンスや工夫で整備され、素敵な町並みに変貌していくことは、新幹線開通や道路の拡幅、公共施設を新設する以上に、価値のあることだと思います。

「日本で一番路地裏の美しい町長野市」、「日本で一番優しい芸術文化のある長野市」を目指して、私も微力ながら制作を通じて何か提案、提供していけたらと思っています。

この会に参加させていただいて、本当にありがとうございました。

(石澤委員)

石澤です。総合計画の審議会委員は10数年振り、長野市で務めさせていただくのは2度目でした。他の町でも審議会委員を務めさせていただきましたが、長野市の場合は、市民と行政との距離が遠いと感じました。

前回、審議会委員を務めた時は、実施計画の提示はなく、総合計画を作って終わりでした。そういう意味では、この実施計画が出たこと自体は少し距離が近くなったのかなと喜んでいますが、その過程を知りたい気持ちもあります。

私の一番の専門は、産業、商業的なことですが、前は建設部会、今回は都市整備部会ということで、建設が専門のように思われていますが、10年間このようなことに携わっていると、財源がないと、実際の計画はできないということは重々承知しています。

先ほど井出委員さんが言われた、補助金が付くかどうかということが、実施計画に盛り込まれることが大事だということも分かるのですが、行政は総合計画の大枠を縛らないような文面でまとめてきます。計画に書かれた骨子的な内容が実施計画に盛り込まれずに、補助金が付くような事業が掲載されているということを残念に思いました。補助金が付かなくても、長野市としてはこうあるべきだというものがあれば、是非実施計画の中に大胆に盛り込んでいただきたいと思います。

新交通システムについては、オリンピックが終わる直前の総合計画の時に、文言だけは入れていただきました。しかし、実施計画の中には入れてもらえなかったため、全然進んでいませんでしたが、今回は実施計画にその記述があるので、少しは進むのではないかと期待しています。盛り込んだからには、進めて欲しいと思います。

後期基本計画の策定では、目標を設定するに当たり都市内分権について随分議論がありました。市民と行政との距離を近くしていかないと、住みやすいまちというのはできないと思います。そういう意味では、都市内分権が大事だと思いますので、文言だけではなく話も入れていただければと思います。

(宮前委員)

宮前と申します。私は、昨年4月に野崎の後任でお世話になることになりました。急に一市民からこのような委員に変わり、何も理解していなかったのが難しかったのですが、石澤部会長のご指導のもと、何とか都市整備部会員としてここまで務めることができました。

長野市は新幹線の延伸や、震災によるエネルギーへの関心の高まり等、マクロ的にはさまざまな変化が生じています。こうした変化に対応して、事業化できるところまでブレークダウンするのが大変難しく、今回も目標値をどのように考えていくかというところで難しい場面がありました。

私は経済研究所というところにはいますが、今回策定した後期基本計画は、5年間かけて実現していくということですので、他の自治体の事例も学びながら、長野市の状況に照らし、長野市にまちづくりの提言ができるようにしていきたいと考えています。

今まで、断片的であった行政関連の知識について、体系的に学ぶことができましたので、今後の活動に活かさせていただきたいと思います。大変勉強になりました。ありがとうございました。

(小林副会長)

副会長を務めさせていただきました、小林でございます。

私が申し上げたい意見は、委員の皆様からたくさん出ました。このような立派な計画ができたわけですが、市の仕事について私たち委員は大変詳しく説明をしていただきました。計画に描かれたまちづくりの姿を、これから市民一人一人に届くかどうかということが大事だと思いますが、それを伝えるのも私たち委員の務めではないかと思っています。

今皆様から、勉強になった、良い経験をさせていただいたという意見がたくさん出ましたが、私もこのような立場で参加させていただいて、大変勉強になりました。

先ほど小山委員から発言があったように、やはりほとんどの市民が行政に対しては距離を置いていて、大部分の人が無関心である、または極端に行政を批判する、そのどちらかではないかと日頃から感じています。

2年前に行政の皆さんと一緒にワークショップをした時に、役職等を一切取り払って長野市を考えましょうという場を与えていただきました。その時に、多くの市民がそのような場を与えていただければ、もっと行政に関心を持ち、市のことを知ることができるのではないかと感じました。今回、人数は限られていましたが、多くの委員の皆様から、自分たちにとって大変良い経験になったという意見が出たので、今後もこのような場が多くの市民に与えられることを願っています。

また、この委員会は藤沢会長のお力で、大変意見が出しやすい環境を作っていただきました。議論が白熱したこともありましたが、まとめていただいたことは藤沢会長のご尽力が大きかったからだと思います。この場を借りて、藤沢会長にお礼を言いたいと思います。ありがとうございました。

(藤沢会長)

委員の皆様、ありがとうございました。それぞれご見識のある方々なので、それぞれの思いで、総合計画の策定に関わっていただいたということを強く感じました。私が、皆様の思いをくんで、1つのものにまとめることができたかという、疑問もあるわけですが、会長という役割を引き受けた時には、平成19年からスタートしている前期基本計画があって、その後期基本計画を作るということで、基本的な路線はベースとしてあって、それを大きく変動していく社会の中で、市民の目で、あるいは行政関係の経験が深い人達の目で、少しでも新しいものを付け加えることができるか、心配したこともありました。

就任当時は、私自身、地区の区長をやっていたので、地域の行事や、様々な組織に関わりながら、長野市と地域がどう関係しているのかということに興味を持っていました。そういう事情もあり、委員を引き受けた動機としては、今までと違った場でいろいろなことを考えてみよう、これも1つの学びどころであると思い、引き受けさせていただきました。

議長を務めさせていただいた私の思いは、短い時間の中で結論が出れば良いのですが、せっかく時間を割いて参加している方々に、思いを述べていただくことが大事ではないかということで、かなり時間を延長していろいろご迷惑をおかけしたこともありました。大きな耳を持って、多くの人々の様々な意見をお聞きすることが、非常に重要なことではないかと思いました。私も、たくさん勉強させていただいて、感謝しています。

今後は、この計画が実際にどのように展開されていくかということが問われるわけで、行政の方々も、重い任を担うこととなります。審議会委員としても、自分たちの作った計画がどのように展開されていくのかという面では、関心を持っていくことが課せられていると思います。

審議会と行政とがうまく連携し、意見交換しながら、長野市がより良くなっていくことを大事にしていくという視点で、今後も取り組まれることを願っています。

皆様のご協力に対し、会長として心からお礼を申し上げます。どうもありがとうございました。

それでは、本日の議事については、以上にしたいと思います。

事務局に進行を返します。

(事務局)

長時間にわたり、ありがとうございました。

以上で、平成24年度第1回長野市総合計画審議会を閉会いたします。